

果樹カメムシ情報第4号

平成24年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 予察灯における誘殺数は、豊橋市、新城市ともに7月上旬に急増し、豊橋市は多い状況が続いています（図1）。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市、新城市のいずれの地域でも7月上旬に急増し、新城市は多い状況が続いています（図2）。

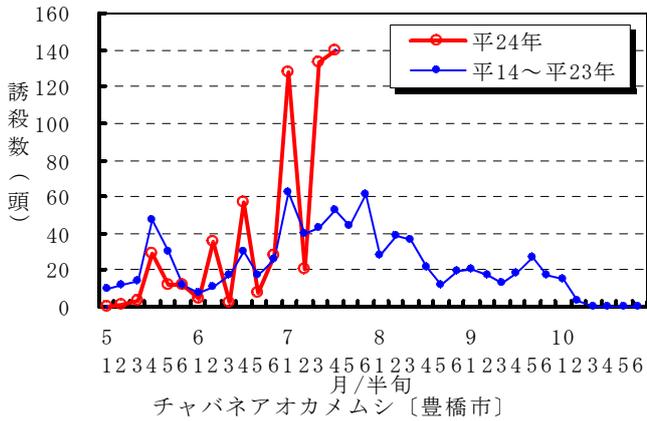


図1 予察灯における誘殺状況

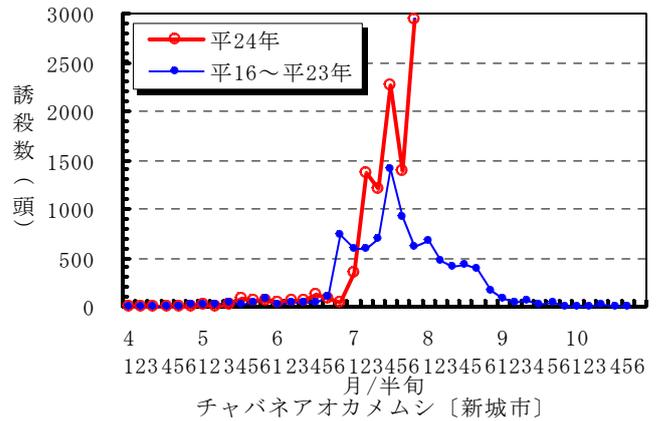


図2 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月中旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの寄生虫数は、成虫が0.2頭（平年0.2頭）、幼虫は0.6頭（平年0.3頭）でした（図3）。ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果から離脱すると言われています。7月中旬の口針鞘数は平均7.1本ですが、岡崎市明見町では13本と多い状況でした（図4）。

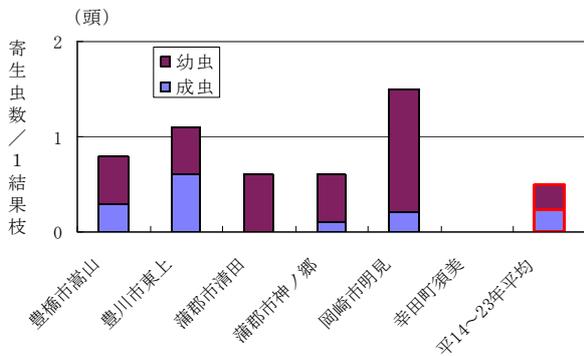


図3 7月中旬のヒノキ球果における寄生虫数

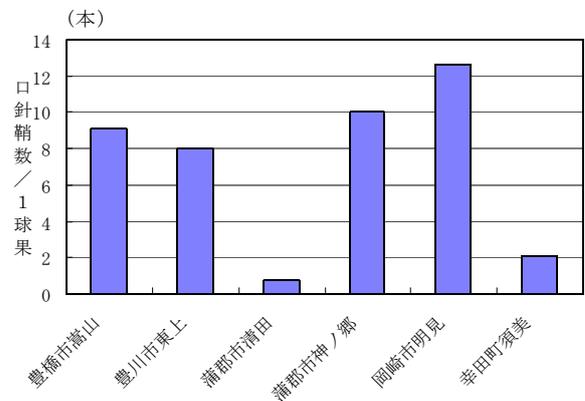


図4 7月中旬のヒノキ球果における口針鞘数

2 今後の発生予測と対応

- (1) 越冬成虫から新成虫への世代交代時期に入っています。ヒノキ球果が平年と比べやや少ないため、8月上旬以降に発生する新成虫の発生量は、平年と比較して少ないと予測されます。しかし、ヒノキ球果がやや少ないので、越冬成虫が再度果樹園へ飛来する可能性があります。成虫の飛来量については、正確に予測することは困難なので、今後のフェロモントラップや予察灯による誘殺数を参考にしてください。
- (2) 果樹園への飛来時期は、ヒノキ球果の口針鞘数から8月上旬から8月中旬頃と推測されます。しかし、岡崎市明見町では7月中旬に口針鞘数が13本であったことから、すでに果樹園への飛来が始まっていると思われます。
- (3) 今後の情報に注意するとともに、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。